

第8回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：平成22年3月23日(月)19:00～21:00

場所：佐土原総合支所

参加行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

(県)河川課、港湾課、自然環境課、宮崎土木事務所、中部港湾事務所

(市)土木課、佐土原総合支所

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介を行った後、市民連携コーディネータの進行により議事が進められた。

事務局から談義所の役割、前回のアンケート結果を、コーディネータからルールを説明した後、事務局より委員会、技術分科会の報告を行い、質疑応答を行った。

その後、海岸の侵食現象や環境など「これからの談義のために理解しておきたいこと」についてワークショップ形式で意見の整理を行い、市民連携コーディネータの進行により談義を行った。

続いて、市民発表(1名の方が発表)、「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」からの活動報告を行った。

その後、今後の談義所の運営・広報・活動方法、海岸に関心を持ってもらうためにすべきことについてワークショップ形式で意見の整理を行い、市民連携コーディネータの進行により談義を行った。

質疑応答、市民発表、美しくする会の活動報告、ワークショップ等の概要は以下の通り。

【委員会、技術分科会の報告、これからの談義のために理解しておきたいことの整理】

コーディネータ：委員会や技術分科会は、それぞれ3時間程度、データを確認しながら議論をしている。委員会や技術分科会の内容は、簡単に説明しても、詳しく説明してもわかりにくい側面があり、どのようにみなさんに分かり易く伝えるかが課題であると思っている。

先日の委員会で、技術分科会がこれから検討していく付託事項が示された。今後の技術分科会の具体的な議論に談義所が絡んでいくことが大切である。

技術分科会の議論に絡んでいくための準備として、談義所では、議論のベースとして必要な知識・情報を共有することが重要である。そこで、今から「これからの談義のために理解しておきたいこと」を付箋紙に書いてボードに貼って頂きたい。

(作業、休憩)

コーディネータ：ボードに貼って頂いた意見のうち、回答ができるものについては、事務局から回答して頂く。工法についての意見は、技術分科会に意見を伝えていく。

“環境調査結果の希少植物の一覧表を配布することはできないか”について

事務局：環境調査の結果については、希少種の所在がわかってしまうという観点から、

公表の仕方については気をつけるように委員会で指摘を頂いており、公表の仕方について検討しているところ。

“平均的な波浪の平均とは何か。台風は入っているのか？”について

事務局：将来予測シミュレーションでは宮崎県が観測している過去3年間（2006～2008年）の波浪データを用いており、一ヶ月ごとに平均して入力データとしている。よって、月毎の特性の違いは考慮されるが、日毎の特性は考慮されない。つまり、1日、2日の砂の動きは表現することはできない。過去3年間に生じていない気象条件も考慮されない。

また、技術分科会では、地形変化モデルによる汀線位置の予測結果と実際の汀線位置との幅について、きちんと認識を共有することが重要との指摘を頂いているところ。地形変化モデルによる汀線位置の予測結果は、実際の汀線位置とは20～30mの幅があり、その条件下で汀線位置の変化傾向を捉えるものと考えて欲しい。

“海岸の法線とは何か”について

県自然環境課：護岸を設置する位置のことである。通常、護岸の設置ラインは直線とすることが多いが、今回の災害復旧では、談義所の意見なども踏まえ、前浜を出来るだけ残す形で少し陸側に引いたラインとした。

“経済面の議論はしないのか。”について

事務局：経済性も評価項目に入れており、技術分科会で検討していきたい。

“土砂収支では、一ツ瀬川の導流堤沖の砂も勘定しているのか”について

事務局：導流堤に挟まれた部分については、過去のデータがないことから除外して計算している。

“緊急という言葉を使って、なぜ談義所を無視して工法を決定するのか”について

事務局：付託事項の「緊急的な取り組み」については、これから技術分科会で議論していく内容であり、工法は決定していない。

参加者：佐土原のクリーンパーク裏の災害復旧の事が言いたかった。クリーンパーク裏については、第6回の委員会以降、まだ決定していないとことで進んできたが、第7回の委員会で予算も工期も示された。災害復旧というのは、養浜ではできないのか。談義所での話し合いや意見が活かされないのであれば、談義所の意味がないのではないかと。これからは緊急という言葉の下、コンクリートが設置されていくのではないかと。

事務局：災害復旧についてはこれまでの談義所等で状況の報告をして貰っていたが、先日の委員会においても、宮崎県自然環境課から、先ほど説明があったように災害復旧工法が決定したという報告があった。

県自然環境課：災害復旧の対応については、10月、12月、2月の談義所で説明してきた。被災箇所の背後には、人家、市のクリーンパーク、浄化センター、電波塔、県道・

市道、養鰻場、田畑があり、地元、市長からも早急に海岸の保全をしてほしいとの要望があった。台風の際、波浪、高潮による影響が増すことから施設を早急に整備してほしいとの要望があった。県としては、地域住民の生命財産を守る観点から実施している。

コーディネータ：質問の意図は、談義所における議論と工法決定との関係についてだと思う。委員会や技術分科会では、対策の考え方として「緊急的な取り組み」と「中長期的な取り組み」が示されたが、「超緊急的なものとして災害復旧の対応はどうしていくのか」と技術分科会で私から質問をした。皆さんが心配しているのは、中長期的なことを考えていても、結局、台風がくれば、海岸が全部コンクリートになってしまうのではないかということだと思う。

このことについては、災害復旧についても緊急的な取り組みで示された方針に基づき技術分科会で確認していくという整理になっている。

災害復旧については、制度上の制約も多いようであり、そのような難しい状況の中、急いでやらないといけないという判断で今回のような形になったと考えている。

災害復旧という制度や制約と談義所や技術分科会との関係をお手探りで考えていかなければならない。

この件は、もう少し工夫ができないかと思う反面、背後に住んでいる方の思いもあり、すぐに結論がつく問題ではない。また、制約条件の問題についても、議論して、整理していかなければならない問題と考えている。

“中長期的な検討は、具体的にどのようにしていくのか”について

事務局：中長期的な検討は、中部流砂系検討委員会で議論していく。明日、中部流砂系検討委員会があり、私の方から海岸サイドの意見を伝える。

“セットバックは検討しないのか”について

事務局：宮崎海岸で発生している侵食に対して、何かしらの対策をしていけないということを委員会、技術分科会で確認したところ。ただし、全域で対策が必要なのか否かについてはこれから技術分科会で検討していく内容である。対策をする箇所、しない箇所などを検討していく中で、セットバックの議論もされていくものと考えている。

市民意見「これからの談義のために理解しておきたいこと」
～海岸の侵食現象や環境など～

| 付箋紙意見 |
|--|
| <input type="checkbox"/> 環境調査結果の稀少植物の一覧表（石崎川）を配布できないか |
| <input type="checkbox"/> 宮崎港やマリーナを含め、現在決定している計画、予定している事業計画を全て出して欲しい。（突堤がさらに伸びることを聞いたので）又、それらの計画・予定に対する海岸への影響も出して欲しい。それを全て含んだ上でのシミュレーションじゃないと全く意味がないと。対策も考えられないと思う。 |
| <input type="checkbox"/> 将来予測結果について。平均的な波浪が来しゅうし続ける条件での汀線位置の平均的に台風の時やいつからの平均なのかわからない。 |
| <input type="checkbox"/> 護岸法線って何？ |
| <input type="checkbox"/> 緊急という言葉使い。なぜ談義所を無視して工法を決定してしまうのか理解できない” |
| <input type="checkbox"/> 土砂収支では導流堤沖の砂山も勘定しているのか |
| <input type="checkbox"/> セットバックは検討されないのか |
| <input type="checkbox"/> 10 年、20 年で汀線も後退して、砂がなくなる予測ができるのなら、離岸堤、護岸のない予測は出せると思うのですがいかがでしょう |
| <input type="checkbox"/> 地形変化モデルの改良について。何かを作ってとなりの砂がなくなり、結果レストハウスの前の砂もなくなったのに、護岸・離岸堤によって低減されてそのデータがでるのが不思議です。” |
| <input type="checkbox"/> 優先順位を設けるのか？ |
| <input type="checkbox"/> 経済面の議論はしないのか |
| <input type="checkbox"/> 中長期の検討は具体的にどのように検討していくのか |
| <input type="checkbox"/> 砂浜を確保すればどんな良い事があるのか？ |
| <input type="checkbox"/> 今までの意見発表の内容を精査して考慮してほしい |
| <input type="checkbox"/> はじめての参加でした。談義所の意味もわからずに参加しました。 本日ある事も宮崎市内のスーパーでみつけてでした。佐土原町内では目にとまってません。数人によびかけましたが、浜がどうなっているかわからない人もいました。本日のため、昨日も石崎浜を歩いてきました。5年ぶりの息子はびっくりしてました。 とにかく専門的なことはわからないけど、息子が空手で海にはいついた頃のように（20年前）まででもとり戻せたら…。それだけが願いで参加しました。” |
| <input type="checkbox"/> ダムの排砂は下流で洪水をおこす危険があるというが置砂ならよいのか |
| <input type="checkbox"/> ダムの置砂は海まで持ってきたらどうか |
| <input type="checkbox"/> 宮崎港防波堤に問題があるなら中長期的に防波堤撤去を検討したらどうか |
| <input type="checkbox"/> 砂の動きを強制的に変える案がありますか？ |
| <input type="checkbox"/> テストでも良、ヘッドランドの小さな物を作って下さい。 |
| <input type="checkbox"/> 砂の流れは南への事。止める方法を急いで下さい。 |
| <input type="checkbox"/> 緊急的な取組み。漂砂の制御により宮崎海岸から流出する土砂量を減らす方法とはどう いう対策か具体的に知りたい” |
| <input type="checkbox"/> 漂砂の制御はどうする？工法など |

| |
|--|
| <input type="checkbox"/> 富田浜と導流堤の沖に砂がたくさんたまっていて大炊田で砂がたりないなら中長期的に導流堤撤去を検討したらどうか |
| <input type="checkbox"/> これまでどれ位の予算が養浜に使われてきたのか、国の方針に変わりはないのか、早く護岸（住吉浜、大炊田浜）をつくるべきでは |

【市民による意見発表】

- 山・里・海の森づくりについて発表します。
- 上椎葉尾前地区の上流国有林に耳川源流域の碑が建立されています。それは日向市のふるさとの自然を守る会との川上と川下の交流の共同作業です。また、宮城県気仙沼湾カキ養殖者畠山重篤氏は「森は海の恋人」の表現で山に広葉樹を植林することの重要性を提言されています。
- 荒れた山ではフルボ酸と鉄は結合しません、自然の山で広葉樹の多いところでは、腐食土と鉄イオンが結合してフルボ酸鉄となって海に流れ植物プランクトンに吸収されます。ところが現在は、上流には砂防堰堤という関所があります。そこには沢山のフルボ酸鉄と土砂が堆積しています。先日は既設砂防堰堤のスリット化テレビ報道や利根川上流赤谷川の治山ダムのスリット化などで砂を海岸に供給する総合土砂管理の考え方で
- 一ツ瀬川にも沢山の関所があります、杉安井関・金丸井関・団井関などの上・下流に沢山の土砂が堆積しています。海に近い堰の改修は治水安全度を高め、中・長期的に土砂供給を促します、清武川松井井関のような全転倒可動化する提案です。農業施設も取り組む総合的な砂の供給です。
- 川の源流から海岸まで流域全体を考えた自然再生の森づくりです、海岸には川から運ばれた砂による美しい砂浜に潮騒の音、ときには歓声が聞こえる、海には栄養豊富な流量で海藻が育ち美味しい魚が取れる、川上と川下との交流・都市との交流です。
私たちの森づくりの、キーワードは「今できること、私たちにできること、そうして未来につなげること、小さな一粒のどんぐりに、1000年の夢」です。
- 大淀川上流では山の森づくりにNPOどんぐり1000年の森をつくる会が取り組んでいます、また企業の森づくり支援もあります、海岸侵食対策にも企業の支援があっても良いのではないでしょうか。
- 一ツ瀬川上流の西米良村、里の西都市でも森づくり活動が行われています。今、宮崎の森づくりボランティア協議会には20団体が加盟しているところでも豊かな森を守る活動がなされています。
- また、魚たちに優しい川づくりの魚つき林や多自然川づくり、子供たちが遊べる川なども重要です。
- 五ヶ瀬川河口・海岸には平成19年台風等により山・流域から粗大な贈り物がありました。それらを約3、500名のボランティアにより綺麗になりました。宮崎海岸もみんなの力できれいな海岸を取り戻し、アカウミガメに優しい宮崎海岸にしましょう。
- 養浜の量を減らす海の森づくりを提案します。バー・トラフのところにアラモかホンダワラなどの海藻を育てたら良いのではないでしょうか。出来るかどうか分かりません。

そこに砂が溜まって冬にはそれが戻ってくるかもしれません。

○また、漂砂抑制工ブロックに海藻が付着している例もあります、砂を溜め藻場が出来れば漁民の方にも良いことだと思います。海食物連鎖は植物プランクトン、動物プランクトン、小魚、マグロなどと連携しています。

○夢は一人でみる夢はただの夢です、みんなでみる夢は現実の夢です。

○ところで皆さん、砂浜を使って何をされますか。

地域風土の再生、伝統文化・祭り清めの神事や神輿、地引網の復活は如何でしょうか。運動会やビーチマラソン、砂芸術、波乗り教室など東国原知事は走ることが好きです知事呼んでイベントしたら如何でしょうか。宮崎海岸市民談義所には素晴らしいサーファーの皆さんが参加しています。子供たちと波乗り教室をしたら如何でしょうか。地産地消の地域ブランドの販売周辺で獲れたものをイベントで販売する。また海洋セラピーと癒しの湯もあります。

○自然と共生する海岸景観で地域おこしの夢を語り、官・民・学協働のきれいな砂浜創出をお願いしたいです。

○富田の堀之内海岸にはハマユウが咲いています、現実のある宮崎海岸石崎浜に沢山のハマユウを植えましょう。

○素晴らしい出会いと交流に皆さん一歩踏み出しませんか。北九州のドブ川と呼ばれた川が20年でアユが遡上する川や青森県大畑町の木野部海岸は10年で海藻が繁茂した成功例もあります。宮崎海岸も一歩踏み出して早く砂浜を取り戻したいものだと願っています。

【宮崎の海岸を美しくする会からの報告】

○第2回市民談義所で、石崎浜への車の乗り入れについて多くの意見が出され、談義所とは別に海岸利用についてのマナーづくりの場が必要ということで設立された。

○目的は、石崎浜における利用について、いろいろな思い、立場、価値観の違う人たちが、連携をしながら談義をして、よりよい市民によるマナーづくりをしていくことである。マナーを広く普及するための方法を検討、実施し、効果を検証しながら改善を加えていく。

○地元住民、利用者、談義所のメンバー、世話役としてよろず相談所、市や県の関係機関が参画している。

○これまで5回の会議を実施した。第2回の会議のときに、人為的な要素と自然的な要素にを分けて検討していくこととした。

○第2回で人的な要素についての検討をおこなったが、そのなかでまずはアクションということでビーチクリーンをすることとなり、メンバーで呼びかけを行った。それが3月14日のビーチクリーンの開催となった。

○市役所がゴミ袋を100袋用意してくれたが、ゴミ袋が足りなくなるくらいの参加があった。多くの人に参加してもらったこと、作業をした達成感が強くわいてきた。

○今後どうするかを3月18日（第5回の会議）に議論して、定期的か不定期かはわからないが、継続していくこととなった。次回は、5月のアカウミガメが上陸する前に実施することとなった。

○第4、5回は、自然的な要素に関する検討を行った。異なる世代、価値観の人が集まっ

ている中で感じたことは、メンバーや会が成熟していくということである。さらに、異なる意見を持つ人々が一緒に考え、議論し、行動する場として進化させていきたい。

○今後の活動予定ですが、人為的な要素に対する対応として、看板の設置について具体的に検討していく。自然的な要素に関する対応も具体的に検討していく。

○行政の方においては、人事異動に関連して引継ぎをお願いしたい。

【質疑】

コーディネータ：このような活動に創造的に多くの方が関わっていくことは、それぞれの気持ちを共有する場になると感じた。自分達でできることは自分たちでやるというのは、地域づくりや街づくり等でよく言われていることであり、美しくする会がそういうステージに上がったということは、とても頼もしく感じた。

参加者：市民発表を聞いて、談義所をやっているということに非常に価値があると感じた。研究の分野でいうと、一般土木とか海岸工学の発想でなく、水産土木、農業土木、森林土木の考えが入った活動となっていた。このような点にもっと力をいれて、海岸を守る方向を模索するともっと良い事があるのではないかと考えた。

参加者：市民発表はとてもおもしろかった。談義所でもぜひ海岸の将来像をみんなで作り上げるような作業をしていくといいと思う。談義所に来る人達だけだと限られているので、広く意見を聞くアンケートづくりを談義所で行うのはどうか。どんな項目を住民に聞いたらいいかなど議論して取りまとめる作業をするといい。

参加者：美しくする会の海岸清掃では、わずか数ヶ月の活動で約100名集まった。談義所は懇談会、勉強会を含めると数年続いているが、なかなか進まない。何が違うかということ、志が同じ人たちが、談義する時間が長いということである。一人一人の意見が主張され、それが反映されるということが成立する地、会自体もスムーズに成立する。談義所のほうも勉強してくれればと思う。

コーディネータ：美しくする会からも勉強させて頂きたい。談義所の議論の進め方、談義所に来ない人の意見を聞く方法、運営の方法についての話があったが、今からは「今後の談義所の運営、広報、活動方法」、「海岸に関心を持ってもらうためにすべきこと」を付箋紙に書いてボードに貼って頂きたい。

（作業）

コーディネータ：美しくする会では、短い期間で多くの人たちが一緒に活動する体制が構築出来たということは、本当に凄いことである。談義所もそれを見習って改善していかなければならない。今日頂いた意見を参考に、工夫をしていく。イベントなども提案頂きたいし、考えていきたい。

月1回の頻度で、2時間というのは、少し短いとも思う。そういったことも

含めて、談義所の運営を検討していく。スムーズに、集中的に議論していけるように工夫していく。足りない部分もあると思うが、長い目でお付き合い頂きたい。

今後の談義所の運営、広報、活動方法について
～こうすればもっと人が集まる、議論を深められる～

| 付箋紙意見 |
|---|
| <input type="checkbox"/> 全くトライアングルが機能していない |
| <input type="checkbox"/> 制度上の制約条件の整理が必要 |
| <input type="checkbox"/> 専門家、委員会との連携が必要 |
| <input type="checkbox"/> 広報について 子ども達を巻き込んだイベントを企画して沢山の人に来てもらいたい、海岸で” |
| <input type="checkbox"/> 会に参加した人が知らない人に伝える ※最低3人” |
| <input type="checkbox"/> この間の美しくする会のビーチクリーンの時もそうだったんですが、同時に談義所などの広報などしたらいいのでは。 人が集まる場をもっと利用した方がいい。” |
| <input type="checkbox"/> 海岸に行く目的（何が出来たか）が必要 |
| <input type="checkbox"/> アンケートは行政関係者からも回収したらどうか |
| <input type="checkbox"/> 話しだけでなく、見物したくなるようにすると、関心がわくと思う。 |
| <input type="checkbox"/> どこか弱い場所を、フェーズプラグを利用する考え方はないか？ |
| <input type="checkbox"/> 談義所で将来の海岸像を作る作業をするとよい 例 ・一般住民にアンケート ・50年後の海岸地図作り ・聞きとり、古い写真、文章を広く集めて編集して出版” |
| <input type="checkbox"/> 区画整理事業関連で住民アンケートの冊子が配布されたように侵食に関連するアンケートを実施できないか？ |
| <input type="checkbox"/> 養浜のモニタリングは地元の人が浜へ来る頻度もモニタリングしたらどうか |
| <input type="checkbox"/> 談義所の日程をインターネットで調べましたが、わかりづらく、新しい参加者がわからないように思いました。個人的 BLOG などで呼びかけています。 |
| <input type="checkbox"/> 海岸未来地図を子供に表現してもらおう（大人も可）。絵、ジオラマなど |

以上。